IMAGENICS

ツイストペアケーブル信号伝送器
10m チェーン伝送・中継受信器
Twisted Pair Cable Repeater

URE-510

取扱説明書

お買い上げありがとうございます。

URE-510 は UTX-500 シリーズの 10 m ケーブル専用デイジーチェーン接続中継受信器です。UTX-500 を送信器として付属の 10 m Cat-5E 延長ケーブルを使用した場合に 10 回程度のデイジーチェーン接続延長(UXGA@60 Hz)が可能です。本機は 10 m ケーブル専用の延長受信装置として内部にシンプルで安定性の高い補償回路を備えており、高性能で使い易い製品です。

この取扱説明書をよくご覧になった上、十分にご活用下さい。

Ver1.0

1.安全にお使いいただくために

本機は、安全に十分配慮して設計されています。しかし、誤った使い方をすると火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

絵表示について

この取扱説明書には、安全にお使いいただくためのさまざまな絵表示をしてあります。
その表示を無視して、誤った取り扱いをする事によって生じる内容を次のように区分しています。
内容をよく理解してからお読みください。

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重症を負う可能性がある事を示しています。	⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が怪我をしたり物的な損害を負う可能性がある事を示しています。

絵表示の意味(絵表示の一例です)

△	注意（警告を含む）を促すものです。例えば は「感電注意」を示しています。
⊘	禁止行為を示すものです。例えば は「分解禁止」を示しています。
●	行為を強制したり指示したりするものです。例えば は「プラグを抜くこと」を示しています。

⚠警告	
本機は日本国内専用です。交流１００Ｖ、５０Ｈｚ･６０Ｈｚの電源でご使用ください。指定以外の電源を使用すると、火災の原因になることがあります。交流２００Ｖ系の電源でご使用になられる場合は、当社営業窓口にご相談ください。	
電源コードを傷つけないでください。電源コードを加工したり、傷つけたり、重いものをのせたり、引っ張ったりしないで下さい。また、熱器具に近づけたり加熱したりしないで下さい。火災や感電の原因となることがあります。万一電源コードが傷んだら、当社サービス窓口に修理をご依頼ください。	
内部に水や異物を入れないでください。火災や感電の原因となることがあります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜き、当社サービス窓口にご相談ください。	
本機から煙や異音がでる、異臭がするなどの異常な状態で使用を続けると、火災や感電の原因になることがあります。異常が発生したら直ちに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて当社サービス窓口にご相談ください。	
雷が鳴りだしたら、電源プラグに触れないでください。 感電の原因となることがあります。	
直射日光の当たる場所や、湿気、ほこり、油煙、湯気の多い場所には置かないでください。 上記のような場所に置くと、火災や感電の原因になることがあります。	
通風孔をふさがないでください。他の機器や壁、家具、ラック面との間にはすき間をあけてください。布などをかけたり、じゅうたんやふとんなど柔らかい物の上に置いたりして、通風孔をふさがないでください。放熱をよくするため、他の機器との間は少し離してください。ラックなどに入れる場合は本機とラック面、他の機器との間にすき間をあけてください。過熱して火災や感電の原因になることがあります。	

⚠注意	
安定した場所に設置してください。ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、落下によりけがの原因になることがあります。	
長期間の使用において内部にほこりがたまると、火災や感電の原因となることがありますので定期的に内部の清掃をすることをお勧めします。当社サービス窓口にご相談ください。	
本機をご使用の際は、使用温湿度範囲をお守りください。保存される場合は保存温湿度範囲を守って保存してください。	
電源プラグの抜き差しはプラグの部分を持って行ってください。電源プラグを抜くときはコードを引っ張らずに、プラグの部分を持って抜き差ししてください。コードが傷つき火災や感電の原因になることがあります。	
濡れた手で電源プラグにさわらないでください。 感電の原因になることがあります。	
定期的に電源プラグのチェックをしてください。 電源コンセントにプラグを長期間差し込んだままにしておくと、その間にほこりやゴミがたまってきます。さらに空気中の水分などを吸湿すると、電気が流れやすくなるため(トラッキング現象)プラグやコンセントが炭化し、ときには発火の原因になることがあります。事故を防ぐため定期的に電源プラグがしっかりささっているか、ほこりがついていないかなどを点検してください。	
移動させるとき、長時間使わないときは電源プラグを抜いてください。 電源プラグを差し込んだまま移動させると、電源コードが傷つき、火災や感電の原因になることがあります。長期間使用しないときは安全のため、電源プラグをコンセントから抜いてください。差し込んだままにしていると火災の原因となることがあります。	
お手入れのときは、電源プラグを抜いてください。 電源プラグを差し込んだままお手入れすると、感電の原因になることがあります。	
分解、改造などをしないでください。感電の原因となることがあります。内部の点検や修理は当社のサービス窓口にご依頼ください。	

正常な使用状態で本機に故障が発生した場合は、当社は本機の保証書に定められた条件に従って修理いたします。但し、本機の故障、誤動作、不具合、あるいは停電などの外部要因により通信、録画、再生などにおいて利用の機会を逸したために生じた損害などの付随的損失の補償につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

目　次

１．安全にお使いいただくために **2**
２．同梱品 **5**
３．URE-510 の特長 **5**
４．前面パネルの説明 **6**
５．背面パネルの説明 **7**
６．使用方法 **9**
６－１．基本的な使用方法 9
６－２．接続方法 10
６－３．送信器の設定 10
６－４．受信器の設定 10
６－５．外部制御 10
７．応用使用方法 **11**
７－１．色差映像信号の伝送 11
７－２．NTSC 映像信号の伝送 11
７－３．RS-232C 信号の伝送 11
８．運用時の注意事項 **12**
８－１．ツイストペアケーブルの接続について 12
８－２．ケーブル敷設について 12
８－３．正常に映像・音声が伝送されない場合 12
８－４．最大延長距離について 12
９．主な仕様 **13**

2.同梱品

URE-510 本体	1 台
電源コード　2P-2S	1 本
Cat-5E 規格ストレートケーブル　10 m	1 本
取扱説明書(本書)	1 部
保証書	1 部

※ 万一、内容物に不足がある場合は弊社営業窓口にご連絡下さい。

3. URE-510 の特長

URE-510 は 10 m の固定長ケーブルによるデイジーチェーン接続用途を主目的に開発したローコスト・ツイストペア伝送・中継受信器(リピーター)です。音声信号伝送にデジタル方式を採用して特性の向上を図ると共に RS-232C 信号の伝送も可能としたアナログ映像・音声・データ伝送器を構成することができます。UTX-500 を送信器として付属の 10 m ケーブルを使用した場合に 10 回程度の接続延長(UXGA@60 Hz)が可能です。本機は 10 m ケーブル専用の延長装置として内部にシンプルで安定性の高い補償回路を備えておりますので無調整にて使用出来、高性能で使い易い製品です。

主な特長

無調整で使用でき高画質・高音質です。

- ケーブルを接続するだけで使用できる、各種高精度固定補償回路を搭載しています。
- パソコン映像の UXGA クラスの信号を 10 段(100 m)程度延長伝送できます。
- 送信側では弊社独自の技術による信号重畳方式により、ダウンストリーム側(受信器側)との接続状況をランプにて表示します。
- 汎用的な LAN ケーブルを用いるため、格安で容易な遠隔表示システムが構築可能です。
- EIA 規格 1U ハーフサイズ、小型低消費電力です。

4.前面パネルの説明

① 電源スイッチ(POWER)

- 電源コードをコンセントに差し、このスイッチを ON 側にすると、緑色の電源表示ランプが点灯して電源が入ります。

② 信号受信ランプ(RJ-45 SIGNAL)

- 送信器からの信号(パイロット信号)が正常に受信されますと緑色に点灯します。

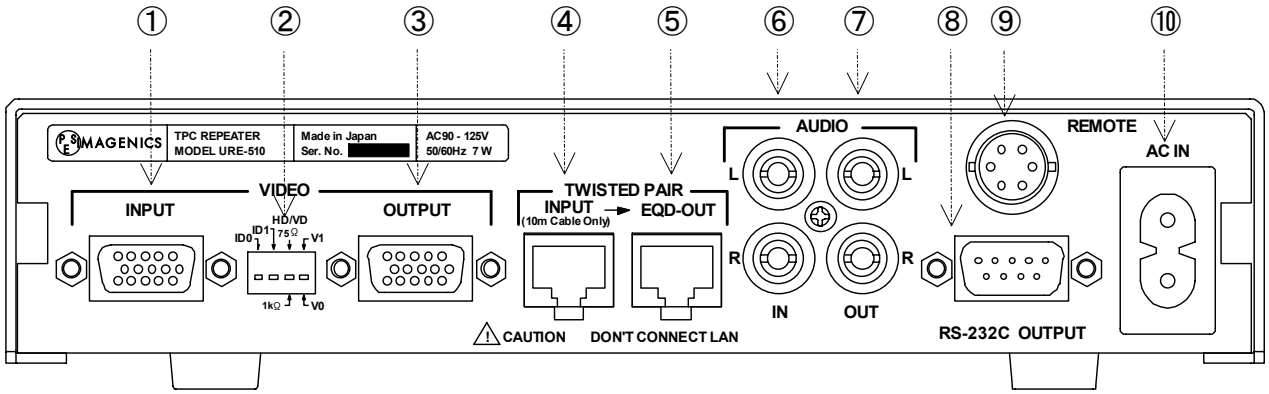
③ 出力信号選択スイッチ(OUTPUT SELECT)

- 受信器の映像／音声信号の出力を選択します。
- 下側(RJ-45)にしますと下側の緑色ランプが点灯し、(RJ-45 コネクターで受けているところの)送信器からの伝送信号を出力します。
- 上側(LOCAL)にしますと上側の黄色ランプが点灯し、ローカル入力からの信号を出力します。
- 通常は中央の AUTO を選択しておきますと、送信器からの選択制御スイッチで信号を切り換えることが出来ます。送信器から信号を送信して(DOWN LINK CONTROL)スイッチを下側(LINE)にすれば、送信器側にて送信した信号に切り換えて、伝送信号を出力することが出来ます。

④ 接続状況表示部(DOWN LINK STATUS)

- 本器の再送信出力(EQD-OUT)端子に接続されている機器の「接続状況」を表示します。
- 受信器と正常に接続していれば「CN」ランプが点灯します。
- 受信器に電源が入っていれば「PWR」ランプが点灯します。
- デイジーチェーン接続をしている場合には「PWR」ランプがゆっくり点滅する場合があります。この場合は、以降の装置の中継動作に異常があることを表示しており、どこかに電源が入っていない装置がある(そこで中継が切れている)ことを示しています。正常に戻すには、その装置の電源を入れて「PWR」ランプが点灯するようにするか、またはその装置以降を切り離してからシステムをお使い下さい。(点滅したままですと、信号品質が劣化する可能性があります。)

5.背面パネルの説明



① 映像入力ミニ Dsub15 ピン(ローカル映像入力)コネクター

- ローカル映像としての入力端子です。前面パネルの「OUTPUT SELECT」スイッチで「LOCAL」側にするとこの入力端子の映像信号が③の OUTPUT 端子へ出力されます。
- 信号は、RGB 型式または YPbPr 型式で入力します。DC オフセットも含めて、±1.0Vp-p の範囲内で入力して下さい。映像信号の種類、Sync の有無は特に問いません。入力インピーダンスは 75Ω固定で、直流結合です。
- 同期信号は TTL レベル HD / VD 型式(正/負とも可)で入力します。HD / VD 端子の入力インピーダンスは「② DIP スイッチ」の設定により 1 kΩ又は 75 Ωを選ぶことが出来ます。特に問題のない限り通常は「1 kΩ」を選択します。
- ケーブル長は、1.8 m で最適化されています。更に長いケーブルをご使用の場合には画質劣化にご留意下さい。

② DIP スイッチ

- 左側２つは、①および③間の ID 接続を制御します。２つとも OFF(下側)にしておけば、Macintosh、DOS/V を含む殆どのケースで問題なく表示されます。万一、③に繋いだ表示装置が無信号状態になる場合、このスイッチの設定を変更します(設定方法は、弊社営業窓口までご相談下さい)。
- 左側から３つ目は、HD / VD 同期信号の入力インピーダンスを切り替えます。HD / VD は同時に切り換わり、下側では 1 kΩとなり上側では 75 Ωとなります。
- 一番右側のスイッチは送信する信号の VD のタイミングを影響の無い範囲で少しだけ(約 0.1 μsec 程度)シフトするスイッチです。
  本装置による信号伝送において、種々の条件が重なることによって稀に画像の上部が左右にぶれるいわゆる「H ブレ」が起こる場合がございます。これは長距離を伝送中に VD が HD に干渉する為に起こる原理的なもので、この症状が起きた場合に本スイッチを切り換えて症状を止めるためのスイッチです。問題がない限り操作する必要はありません。
- 出荷時設定は４つとも OFF(下側)です。

③ 映像出力ミニ Dsub15 ピン(映像出力)コネクター

- 本器の映像出力端子です。前面パネルの「OUTPUT SELECT」スイッチで選択された映像信号が出力されます。下側(RJ-45)では④で受けた伝送映像信号、上側(LOCAL)では①に入力された映像信号が出力されます。
- 出力インピーダンスは映像・同期とも 75Ω です。
- ケーブル長は、1.8 m で最適化されています。更に長いケーブルをご使用の場合には画質劣化にご留意下さい。

④ RJ-45 入力コネクター

- LAN ケーブルによる送信器からの伝送信号を受け取るコネクターです。
- 付属の 10 m 延長ケーブルにて送信器の RJ-45 送信端子と接続して下さい。
- 送信器として接続出来る機種は RJ-45 の送信端子を持つ UTX-500 シリーズの各機器で、基本的には最初に UTX-500 を用いて信号を供給します。(UTX-111、UTR-211(A)、UTR-101TX、UTR-101RX、UTR-311、URD-104 及び URD-116 の各機種とは伝送信号形式が異なるために接続出来ません。)

※ 社内 LAN(Ethernet 等)やデータ通信等で使用中のケーブルを、絶対に接続しないで下さい。

⑤ RJ-45 出力コネクター

- ④で受けた伝送信号の再送信用出力端子です。内部で各信号に対し波形整形／補正を行い再出力しています。
- 弊社推奨ケーブルを使用する場合、両端のプラグは T568A 規格結線として下さい。
- 本端子に受信装置が接続された場合、前面パネルの DOWN LINK STATUS 表示ランプで受信器との「接続状況」を表示します。

※ 社内 LAN(Ethernet 等)やデータ通信等で使用中のケーブルを、絶対に接続しないで下さい。

⑥ RCA ステレオ音声入力コネクター

- 音声入力レベルは －10 dBu、入力インピーダンスは約 50 kΩ です。
- 使用しない場合は開放のままで構いません。

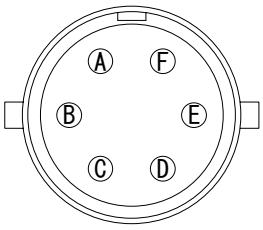
⑦ RCA ステレオ音声出力コネクター

- 音声出力レベルは －10 dBu、出力インピーダンスは約 150 Ω です。
- 本器の音声出力端子です。前面パネルの「OUTPUT SELECT」スイッチで選択された音声信号が出力されます。下側(RJ-45)では④で受けた伝送音声信号、上側(LOCAL)では⑥に入力された音声信号が出力されます。
- 使用しない場合は開放のままで構いません。

⑧ RS-232C 信号 出力コネクター

- 伝送する RS-232C 信号の出力端子です。送信器側からの一方向伝送のみです。
- 伝送可能ボーレートは 38.4 kbps までです。

⑨ 外部制御用コネクター



- 勘合面より見た端子配列は右図を参照下さい。
- 端子機能は下記の通りです。

A:GND(0 V)です。

B:解放にすると AUTO モード（UTX-500 による一括制御）、GND と短絡すると MANUAL モード（ローカル制御）となります。本体側で 10ｋΩの抵抗を介して+5Ｖにプルアップしています。

C:端子 B により MANUAL モードに設定した時、このピン（端子 C）を開放すると強制的に RJ-45 入力を選択します。GND と短絡すると強制的に D-Sub・RCA 入力を選択します。本体側で 10ｋΩの抵抗を介して+5V にプルアップしています。端子 B が解放状態の場合、この端子の抵抗は無視されます。

D:D-Sub 入力が選択されている場合電流を吸い込みます。40mA 以内でご使用下さい。

E:RJ-45 入力が選択されている場合電流を吸い込みます。40mA 以内でご使用下さい。

F:+5V 出力です。自己復帰 FUSE を内蔵しています。100mA 以内でご使用下さい。

※ 端子 B および C に接続するスイッチは、ロックタイプを使用して下さい。

※ 端子 D および E の出力は、全面パネル③（LOCAL/RJ45 LED）と常に同じ状態になります。また、電流制限抵抗を内蔵していませんので、LED を接続する場合は、必ず外部で LED と直列に電流制限抵抗を接続して下さい。

- 使用するコネクタ品種は下記の通りです。

レセプタクル（本体側）　：多治見無線 RO5-R6F

プラグ（ケーブル側）　：多治見無線 RO5-PB6M または RO5-P6M または相当品

◆ご注意：外部制御コネクタを使用する場合、全面パネル③は必ず「AUTO」の位置に指定して下さい。

⑩ AC IN 端子

- 付属の AC ケーブルにて AC 100 V を供給します。

6.使用方法

6-1.基本的な使用方法

- 本機は 10 m 固定ケーブル延長・中継受信器として設計されており、10 m づつの間隔で 10 段程度(UXGA@60 Hz)までのデイジーチェーン接続延長が可能です。
- 付属の 10 m ケーブルが専用の入力接続ケーブルとなります。本体には基本的に調整箇所は無く、無調整にて使用出来ます。
- 本機 の入力側・出力側には伝送方式が同じである URX-500、URX-500A を接続して、10 m 以上の

延長としたデイジーチェーン接続をすることが可能です。但し伝送できる信号解像度の制限がURX-500、URX-500A の仕様に従うようになり、条件は厳しくなります。

6-2.接続方法

- 映像ソースと送信器の映像入力ミニ Dsub15 ピンコネクター間を適合する接続ケーブルで接続します。弊社製「DP-DP1.8m」(両端ともミニ Dsub15 ピンコネクターの 1.8m ケーブル)や「DP-5BP1.8m」(ミニ Dsub15 ピンコネクター = BNC プラグ× 5 の 1.8m ケーブル)をご使用下さい。また音声を伝送する際には音声ソースと送信器の RCA ステレオ音声入力コネクター間を適合する接続ケーブルで接続します。
- 送信器側での映像・音声のモニターが必要な場合にはそれぞれの出力コネクターとモニター装置の入力コネクターとを接続します。
- 受信器の映像出力ミニ Dsub15 ピンコネクターとモニターやプロジェクター間を適合する接続ケーブルで接続します。音声出力についても同様に適合する接続ケーブルで接続します。
- 送信器と受信器の RJ-45 コネクタ間を付属の延長ケーブルにて接続します。

6-3.送信器の設定

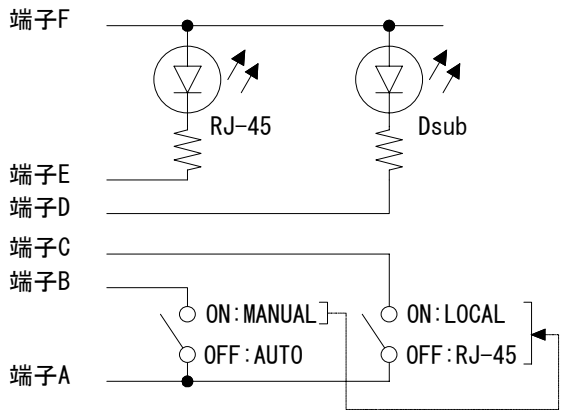
- リヤーパネルの HD・VD 入力インピーダンス設定は、通常 1 kΩ(工場出荷時設定)で殆どのケースに対し正常に動作するはずです。特に問題のない限り、通常は 1 kΩを選択して下さい。

6-4.受信器の設定

- リヤーパネルの HD・VD 入力インピーダンス設定は、通常 1 kΩ(工場出荷時設定)で殆どのケースに対し正常に動作するはずです。特に問題のない限り、通常は 1 kΩを選択して下さい。
- 出力選択スイッチ(OUTPUT SELECT)はローカル信号入力を操作選択する場合を除き、通常の場合「自動(AUTO)」を選択します。こうしておけば、送信器側より出力を選択することが出来るようになりますので便利です。

6-5.外部制御

- 使用するスイッチは、ロックタイプを使用して下さい。モーメンタリータイプのスイッチを使用した場合、ボタンを離すと「解放状態」に復帰してしまいます。
- 前面パネル③（出力信号選択スイッチ）は、必ず AUTO の位置で固定して下さい。
- 参考接続方法を右図に示します。



7.応用使用方法

7-1.色差映像信号の伝送

- HDTV、βカム等の色差信号も伝送可能です。
- Y(3 値 Sync)+色差 R+色差 B、R+G(3 値 Sync)+B 等で使用可能です。
- 色差信号に SYNC が重畳していても問題ありません。受信器からはそのまま出力されます。
- 未使用となる HD、VD 用コネクターは、開放のままで構いません。

※ 3 値同期信号を送信器の HD 入力に接続した場合、受信器の HD 出力から正常な 3 値同期は得られません。

7-2.NTSC 映像信号の伝送

- UTX-500 1 台で、最大 3ch までのコンポジット映像信号を同時に伝送できます。
- 各々の映像信号は、水平、垂直どちらも同期している必要は特にありません。
- S 端子等の Y/C セパレート信号と 1ch のコンポジット映像信号を同時に伝送することも可能です。この場合、3 系統の信号の各々を、UTX-500 の R, G, B のいずれに接続しても構いません。

7-3.RS-232C 信号の伝送

- RS-232C 信号の伝送は送信器から受信器への一方向伝送となります。
- コネクターピン配列

UTX-500 Dsub9 ﾋﾟﾝｵｽｺﾈｸﾀｰ			URE-510 Dsub9 ﾋﾟﾝｵｽｺﾈｸﾀｰ	
端子 No.	信号名	方向	信号名	端子 No.
1	NC(未接続)		NC(未接続)	1
2	RXD(受信データ)		RXD(受信データ)	2
3	TXD(送信データ)	⇒	TXD(送信データ)	3
4	DTR(6 ピンと短絡)		DTR(6 ピンと短絡)	4
5	GND(信号グランド)	⇒	GND(信号グランド)	5
6	DSR(4 ピンと短絡)		DSR(4 ピンと短絡)	6
7	RTS(8 ピンと短絡)		RTS(8 ピンと短絡)	7
8	CTS(7 ピンと短絡)		CTS(7 ピンと短絡)	8
9	NC(未接続)		NC(未接続)	9

- 送信(SEND)端子の Dsub9 ピンコネクターは送信信号を(３番)TXD 端子に、GND を(５番)GND 端子に接続します。
- 受信(OUTPUT)端子の Dsub9 ピンコネクターは(送信端子と同様で)受信信号を(３番)TXD 端子に、GND を(５番)GND 端子に出力しています。
- 伝送可能ボーレートは 38.4 kbps までです。

8.運用時の注意事項

8-1.ツイストペアケーブルの接続について

・ 誤ってツイストペア出力をコンピュータ等の LAN ポートに接続した場合、ネットワークに異常を来す可能性が非常に高いばかりでなく、本装置や LAN ポート等が物理的に永久破壊する恐れがありますので、本装置に接続すべきケーブルには識別をする等により、充分にご注意下さい。

8-2.ケーブル敷設について

・ システム構築する場合、本機に接続される延長ケーブルは、AC 電源コードや各種デジタル機器等の比較的ノイズを放射し易い媒体から物理的に隔離して布線されますようご留意下さい。

8-3.正常に映像・音声が伝送されない場合

・ 念のため、ミニ Dsub15 ピンコネクターや RJ-45 コネクタへ繋ぐ延長ケーブルの、断線や誤結線がないことをご確認下さい。

・ 可能であれば、本機をバイパスした場合に正常に映像が表示されるかご確認下さい。

・ 送信器の DIP スイッチ設定をご確認下さい。特に、ノートパソコンの出力を直接信号源とする場合、HD・VD の入力インピーダンスが 75 Ωに設定してあると、信号が減衰して正常に動作しなくなることがあります。

⇒ 上記をご確認後、依然正常に表示されない場合は、「同期がとれない」「赤色が抜けている」等々、具体的な現象を弊社サービス窓口にご相談下さい。

8-4.最大延長距離について

・ 本システムでは、デイジーチェーン接続(カスケード接続)をすることにより伝送距離が延長出来ますが、映像信号伝送は基本的にアナログ信号伝送方式を採用しておりますので、距離と信号減衰量の関係から「延長可能距離」には自ずと限界がございます。アナログ信号伝送であるが故の小さな信号歪の蓄積とノイズの加算が生ずる為であり、伝送する信号の解像度によってその距離は異なってきます。

・ 本書で示しております「延長可能範囲」とはこれらを総合的に勘案した上での、実用上殆ど問題のない範囲で且つ十分に信号の届く距離をそれぞれ一例として示しております。

9.主な仕様

（送信器に UTX-500 を使用した場合の主な仕様となります。）

延長ケーブル	: RJ-45 コネクター 1 系統 付属ケーブル：入力接続用専用 10 m ケーブル エンハンスト CAT-5 規格 TIA/EIA T568A 準拠ストレート結線ケーブル
映像信号周波数特性	: DC ～ 100 MHz ±1.5 dB 以内(10 m × 1 回延長時、送受信伝送特性)
延長時周波数特性	: 7 段(70 m 延長)時 DC ～ 20 MHz ±1 dB 以内、20 MHz ～ 100 MHz ±3 dB 以内
映像信号受信制御	: EQ(イコライザー)補償、レベル補償、Skew 補償 各々内部にて固定補償
音声出力信号	: 送信器へ入力した信号と同一レベルで出力 150Ω RCA ステレオピンジャック 1 系統
音声周波数特性	: 20 Hz ～ 20 kHz ±1 dB 以内(基準レベル -10 dBu において、1 kHz 基準)
音声信号特性	: 最大出力レベル ＋10 dBu (10 kΩ 以上負荷時)、S/N 比 74 dB 以上(基準レベルにおいて)、 歪率 0.1 % 以下(基準レベル、1 kHz において)
シリアルデータ出力	: 送信器へ入力した信号と同一の RS-232C 信号 Dsub9 ピン 1 系統 送信側からの一方向伝送のみ 伝送レートは 38.4 kbps まで
延長可能範囲	: 最初の延長を含む延長可能範囲はおおよそ以下の通りです。 UXGA/WUXGA 映像 : 10 段(100 m)まで SXGA 映像 : 12 段(120 m)まで XGA/SVGA/VGA 映像 : 15 段(150 m)まで NTSC ｺﾝﾎﾟｼﾞｯﾄ映像 : 15 段(150 m)まで 音声/RS-232C 信号 : 20 段(200 m)まで
ローカル信号入力	: 映像／同期信号入力 ミニ Dsub15 ピン 1 系統、音声信号入力 RCA ステレオピンジャック 1 系統（フロントパネルスイッチの操作により伝送信号と切り換えてそれぞれの出力端子に出力）
外部制御	: パラレルリモート（R05-R6F 6 ピンコネクター）
その他機能	: 接続状況表示機能 = 下流側機器との「ケーブル接続」及び「受信器電源 ON」の状況を表示します。 デイジーチェーン接続中継における最終段までの電源状況を表示します。
動作温湿度範囲	: 0 ℃ ～ 40 ℃ 20 %RH ～ 90 %RH（但し結露なきこと）
保存温湿度環境	: -20 ℃ ～ 70 ℃ 20 %RH ～ 90 %RH（但し結露なきこと）
外形寸法	: 幅 210 mm × 高さ 44 mm × 奥行き 230 mm（突起物を除く）
電源	: AC 90 V ～ AC 125 V)、 50 Hz ・ 60 Hz
消費電力	: 約 7 W
質量	: 約 1.7 kg
付属品	: エンハンスト CAT5 規格 T568A 結線ストレートケーブル 10 m 1 本 電源コード 2P-2S 1 本

本書の著作権はイメージニクス株式会社に帰属します。本書の内容の一部または全部をイメージニクス株式会社から事前に許諾を得ることなく複製、改変、引用、転載することを禁止します。

本書の内容について、将来予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

本書の内容については、万全を期して作成しましたが、万一誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたら、ご連絡下さい。

本機の使用を理由とする損害、逸失利益等の請求につきましては、上記にかかわらず、いかなる責任も負いかねますので、予めご了承下さい。

本機のハードウェアに対して、リバースエンジニアリング等の手法によって内部を解析し利用することを禁止します。

乱丁本、落丁本の場合はお取換え致します。弊社までご連絡下さい。

仕様及び外観は改良のため予告なく変更する事がありますので、予めご了承下さい。

Copyright (c) 2009, IMAGENICS Co., Ltd. All rights reserved.

製造元 イメージニクス株式会社

お問い合わせは下記営業本部または営業所までおねがいします。

Home Page www.imagenics.co.jp

本社 技術本部 〒182-0022 東京都調布市国領町 1-31-5
TEL 042-440-7811 FAX 042-440-7812

営業本部 〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂 1-16-7 ハイウェービル 6F
TEL 03-3464-1401 FAX 03-3477-2216

大阪営業所 〒534-0025 大阪市都島区片町 2-2-48 MID 京橋ビル 3F
TEL 06-6354-9599 FAX 06-6354-9598

福岡営業所 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南 1-10-5 第 2 博多偕成ビル 4F
TEL 092-483-4011 FAX 092-483-4012

この印刷物は古紙配合率 100%再生紙と環境にやさしい大豆油インキを使用しています。

0905TAK V1.0